

お互いさま

o tagaisama

特集

地域住民と描く高齢社会の
モデル構想の実現に向けて

クローズアップ

ベーカリーカフェ
「ブレッド&バター」

キラキラ働き人

児童発達支援事業所
キッズタウンからふる

白土恵美さん 濱崎喬之さん





昔ながらの団地ですが、改装により古さは感じません。
この一角にデイハウスながえがオープン。



デイハウスながえには6人の職員が在籍。
地域在住の経験豊富な看護師も勤務しています。



利用者の生活の場を大切にするために訪問に力を
入れています。1日1回、訪問介護に出かけています。



利用者さんが宿泊などで使うベッドのあるお部屋。
改装したばかりでとても綺麗です。

子市、当法人、そして地元住民たちの間で意見交換が重ねられてきました。そこで、県営住宅に独居高齢者や、生活に不安を抱えている高齢者が多いという意見が多く挙がり、今年4月、永江団地の「コミュニティ活性化の活動の一環として『デイハウスながえ』(小規模多機能型居宅介護事業所)が県営住宅内に開所。もともと永江団地の目と鼻の先には当法人が運営する「デイハウスせんごく」があつたので、この施設を母体としたサテライト施設としてオーブンしました。

デイハウスながえの特徴は、小規模多機能型居宅介護事業所としての役割だけでなく、地域の安心システムを担っている点にあります。利用者ではない団地の住民が「隣人の元気がなく物忘れが激しい」「福祉用具について教えてほしい」と相談に訪れるることは珍しくなく、地域包括支援センターへとつなげる



こともあります。団地には独居高齢者、遠方からの移住者、シングルマザーなどさまざまな住民が暮らしていますが、地域とのかかわりが希薄な方は、本当に深刻な状態になるまで相談をしなかつたり、孤独死の状態で発見されたりと、地域住民や民生委員さんたちはすぐに対応できる場所を求めていました。こうした地域の声を受けて、県営住宅の中にこの施設が開設されたわけです。

またこの9月からは鳥取県の事業であるI-O-Tを活用した高齢者の見守り・緊急通報サービス「あんしん見守りサービス」の試験運用が永江団地で始まり、その拠点をデイハウスせんごくが担っています。日中、サービスの登録者に異変があれば、ごせんごくとながえの職員が駆けつけ、夜間は幸朋苑の職員が対応することになっています。

在宅福祉の限界点を上げてゆく

デイハウスながえの開所は、あくまで

利用者の声



伊木様
(女性86歳)

近く(県営住宅にお住まい)にデイハウスができるとでも嬉しいです、何より安心します。ここに来ると話し相手もいて、楽しい時間を過ごさせてもらっています。



大田様
(男性72歳)

家においても一人だし、話し相手もおらんですけん、ここに来れば皆さんおられるから、話してもきて良いです。

デイハウスながえとは?

県営住宅の2部屋に2021年4月に開設され、自宅のようなアットホームな雰囲気です。既存の公営住宅を活用した小規模多機能型居宅介護事業所は全国初の取り組み。6名の職員とともに通い・泊り・訪問のサービスを提供し、中でも訪問をメインに利用者の生活基盤の支援を行っています。



高齢者対策の一環であり、これから始まる取り組みの序章です。今年6月には「一般社団法人支え愛ネットながえ」が設立され、①住民の力で「最期まで安心して・楽しく暮らせる地域」を創る、②高齢者も子どもも一緒に楽しく暮らせる地域を創る、という理念のもと、「スーパー・エルフ・エアビレッジ永江」という大きな構想が描かれました。その中にはフレイル(心身の活力の虚弱)予防もありますが、永江団地では米子市のモデル事業として3年前から継続して予防教室を開催しています。フレイル予防のように、すでに実績のある活動も盛り込みつつ、新たな地域の拠点を整え、在宅福祉の限界点を上げようと活動が動き出しています。永江団地の皆さんとともに、これからの中高齢社会のモデルを構築していくと、いよいよ最初の一歩を踏み出しました。

当法人と永江団地の自治会の皆さんとの最初の接点は8年前にさかのぼります。米子市のモデル事業として「なんぶ幸朋苑」と「支え愛の店」が協力して米子市初の認知症カフェを開催したことをきっかけに関係がスタート。「永江を語る会」という会を立ち上げて話し合いを積み重ね、2017年に支え愛の店が現在の場所に移転した際には、当地域包括支援センターとなんぶ幸朋苑が事業の一部を担うことになりました。19年からは永江団地が抱える社会的問題の解決に向けて、鳥取県と米子市が事業の一環を担うことになりました。

コミュニケーションの活性化を目指して

当法人と永江団地の自治会の皆さんとの最初の接点は8年前にさかのぼります。米子市のモデル事業として「なんぶ幸朋苑」と「支え愛の店」が協力して米子市初の認知症カフェを開催したことをきっかけに関係がスタート。「永江を語る会」という会を立ち上げて話し合いを積み重ね、2017年に支え愛の店が現在の場所に移転した際には、当地域包括支援センターとなんぶ幸朋苑が事業の一部を担うことになりました。19年からは永江団地が抱える社会的問題の解決に向けて、鳥取県と米子市が事業の一環を担うことになりました。

大型団地で進む急速な高齢化 実現に向けて 高齢社会の モデル構想の 実現に向けて 地域住民と描く



伊藤道美さん 松本恭治さん 宮永和美さん
宮永さんは「デイハウスせんごく」の責任者、松本さんは「なんぶ幸朋苑」の理事・総合施設長、伊藤さんは「米子市尚徳地域包括支援センター」の所長。

クローズアップ

こうほうえんの施設を掘り下げて紹介！



フレンズが、それぞれの個性や得意分野を生かして精一杯仕事に取り組んでいます。



ローストしたナス、カリカリベーコン、自家製トマトソースを挟んだミラノサンドも大人気商品です。



食パン本来の味を引き出した生食パンは大人気！
日替わりで自家製天然酵母パンなどが並びます。



鮮やかな看板が目を引くヘルスケアタウンうきまの
2階にある店舗。ドッグランやテラス席もあります。



店舗の中はカフェスペースを併設。ここを無料で
貸し出して地域の人々がワークショップを開きます。

障がいのある人が 地域とつながり輝く場所



地域社会での 自立に向けたサポート

東京都北区にある「ブレッド&バター」は社会福祉法人こうほうえんが運営する、就労継続支援A型のベーカリーカフェです。就労継続支援A型とは、障がいのある人や難病を抱える人が、ある一定のサポートを受けながら働くことができる福祉サービスのこと。利用者は事業所と雇用契約を結び仕事をするので、賃金が発生します。「ブレッド&バター」では利用者の皆

で取り組んでいます。
**働くことが
自尊感情を高める**
「お客様へのサービスの向上」という目的的さえしっかりとすれば、現場の意見が反映されやすく、職員のモチベーションの源になっています」と話すのは、管理者の藤井綾子さん。実際にお店では、「店舗に賑わいを生むとともに、地域のコミュニティの場になれば」と、ドッグランを開設したり、カフェスペースを地域の人に無料で貸し出してワークショップを開いたりと、地域貢献も含めたいろいろな取り組みがなされています。「ワークショップはスタートしてまだ数か月ですが、マカロン石鹼づくりやベビーマッサージレッスンなど、地域の人々が講師を務め、赤ちゃんから大人まで楽しんでくださっています」と手ごたえを感じている様子。こうしたイベントや新商品の告知、フレンズの頑張りなどは、お店のSNSを通じて職員たちが広く発信しています。

「フレンズの皆さんは誇りを持つて一生懸命働き、表情も明るいのでお客様からよくお褒めの言葉をいただきます。パンそのものもこだわっていますので、毎日通つてくれるお客様もい

目指す地域貢献の形
現在、店舗だけの売り上げではフレンズの給与を賄うことは難しいので、10園の保育園への納品と、数か所の外販先を確保しています。フレンズの頑張りに応えるために、より収支を安定させてボーナスを支給することが、お店の目標のひとつです。

また、地域とのかかわりを深め、地域社会へ貢献することも大切な使命。「地域にはこのお店が就労支援施設であることは周知されていて、ご近所の障がいのあるお子さんのお母さんが相談にく来てくれますし、ここでお子さんを働かせたいと実習につなげてくれた人もいます」と藤井さん。将来的には、行き場をなくし、支援につながっていないような障がい者やその家族の受け皿としての役割も担い、地域に必要とされる場所になることを目指しています。

お店紹介 ベーカリーカフェ「ブレッド&バター」

- 住所 東京都北区浮間5-13-1
- 電話 03-5914-1371
- 営業時間 11:00~17:00 (現在8:30~15:00)
※詳細はお店にお問合せください
- 定休日 土・日曜、祝祭日、夏季・年末年始
- インスタグラム
<https://www.instagram.com/breadandbutter1371/>



藤井綾子さん

東京都内の公立民営の障がい者支援施設などを経て、2011年入職。15年から管理者を務め、サービス管理責任者も兼務する。

キラキラ
働き人



濱崎喬之さん

＼お2人が勤務する／
児童発達支援事業所
キッズタウン「からふる」とは？

発達が気がかりな地域の未就学児の小集団の療育の場として「キッズタウンかみごとう」内に2021年4月に開所しました。保育士、言語聴覚士、公認心理士がチームを組み、成長を支援しています。ここで習得したことを生活の場でも生かせるよう、保護者へのアドバイスや、保育園や幼稚園、学校などへの訪問支援体制も整えています。



白土恵美さん



プロフィール



浜崎喬之 (はまさき・たかゆき)さん

2019年に錦海リハビリテーション病院に入職し、同院で言語聴覚療法の小児外来を開設。地域に未就学児向けの療育の場の必要性を感じ、「キッズタウン『からふる』」の設立に携わる。言語聴覚士、看護師、保健師。

言葉の専門家として、
親子を支援しています

遊びの中にエッセンスを

言語聴覚士(ST)というと、成人や

高齢者の方の高次機能障害や嚥下障害などのリハビリのイメージが強く、私のような小児専門のSTを知らない方も多いたと思います。小児と成人の違いは、成人は失ったものの再獲得であるのに対し、小児は獲得していないものを獲得することを目指しています。発音、言葉の遅れ、読み書きや計算などの学習障害など、言葉の面での獲得をお手伝いをするのが小児専門のSTの仕事です。

では実際に「からふる」でSTは子どもたちとどのようにかかわっているのかと言ふと、保育士さんがつくった療育全体の流れの中で、言葉の発信につながるような声かけやかかわりをしています。大切なのは遊びを通じて獲得・経験を重ねること。「教えてあげる」という態度は子どもたちにとても警戒されるので、対等な関係を意識して、遊びの中に成長に

子どもたちの成長が、
大きな喜びです

保育園併設という環境

「からふる」は、保育園に併設しているので、子どもたちは、広い園庭や遊戲室でしっかりと体を動かして遊ぶことがで

分の気持ちにゆとりを持って、子どもたちの発信を見逃さず、気持ちに応えていくよう意識してかかわっています。子どもたちの笑顔を大切にし、保護者の方と共に成長を喜び合っていきたいと思います。

プロフィール



白土恵美 (しらと・えみ)さん

障がい者施設での勤務を経て、2002年に保育士として「キッズタウンかみごとう」に入職。「キッズタウン『からふる』」の開所に伴い管理者、児童発達管理責任者に就任。施設運営とともに、子どもたちの療育にも携わる。

丁寧なかかわりを実践

療育は丁寧なかかわりが大切と言われます。きめ細やかな支援をおこなうために、個別の支援計画、月ごとや週ごとの計画を立てています。子どもたちが、日々充実した時間を過ごすために職員間での情報共有はとても大事で、一日の終わりに振り返りの時間を設けています。それぞれの経験や価値観がある中で、同じ方向に向かって意見をすりあわせて行くことは管理者として大切な役割だと思っています。

私は、療育現場にも携わっています。自

分の気持ちにゆとりを持って、子どもたちの発信を見逃さず、気持ちに応えていくよう意識してかかわっています。子どもたちの笑顔を大切にし、保護者の方と共に成長を喜び合っていきたいと思います。

最近、地域での認知度が上がり問い合わせを増えてきました。単体の事業所よりも相談や見学をしやすい点も併設の良さだと感じています。保護者の方から、「からふる」がでてきてよかったです」「子どもが『からふる』に行くのを楽しみにしている」「言葉が増えた」などの声を頂いています。

今後も、子どもを中心には、保護者の方の

思いに寄り添いながら、私たちができるこ

とを丁寧に取り組み、地域の中を選ばれ

続ける施設を目指していきます。



つながるエッセンスを入れています。

3人のSTが子どもを支援

「からふる」では私を含めて3人のSTが日替わりで勤務していますが、いつも顔を合わせられるわけではないので、意識してコミュニケーションをとるようにしています。それぞれの経験に基づく評価やかかわり方があるので、すり合わせをして、均質なかかわりを提供できるように考えを共有することが大切です。

言語面の発育は保護者の方が非常に心配される部分です。言葉の専門家として、期待やニーズは日々感じますし、実際に、STのアドバイスによって安心される方は多いです。「からふる」でも保護者と一緒にお子さんの成長を見守りながら、お手伝いをしていかなければと思います。今後もSTとして、今来ていただいているお子さんたちに十分な療育を提供しつつ、学校や地域と連携を深めて、地域に必要とされる施設を目指したいです。

こうほうえん「e-ラーニングシステム」の導入について

当法人では、2021年5月から「e-ラーニングシステム」を導入しています。

e-ラーニングとは、インターネット技術を使い、文章や動画を観ながら学ぶ学習システムのことです。

こうほうえんは24時間365日サービスを提供しています。職員の勤務時間、勤務場所もいろいろです。e-ラーニングシステムにより、いつでもどこでも全ての職員が平等に学習の機会を得られるようになります。

また、e-ラーニングシステムを通じた意見交換や、反復学習により、1回受けて終わりでは



なく参加者同士による相乗効果が期待できます。職員の学びを後押しすることにより、自律的に学習する組織、「学ぶ文化」に繋げたいと考えています。

まずは主任以上の役職者を対象に導入し、年度内には全ての職員を対象に展開する準備をしています。



寄附者一覧

※令和3年6~8月にご寄付をいただいた皆さま(五十音順)

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。

皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

- 足立宏也様 ● 濑尾尚史様 ● 有限会社井上モータース…代表取締役 井上修志様 ● 株式会社D・I・P…代表取締役 伊藤由子様
- 有限会社パイプフレンド…代表取締役 千鳥幹男様 ● 有限会社ワイビーエム…代表取締役 千鳥幹男様 ほか6名

寄付金合計額:1,342,100円

<北東京エリア>

- 絵本等(10冊)、バスタオル(12枚)、ペーパータオル(36袋)

ボランティア一覧

※令和3年6~9月にボランティアにご参加いただいた皆さま

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます。

<さかいエリア>

- 車椅子清掃…酒井金壽様

<なんぶエリア>

- 生活補助、レク補助…尾原様 ● 習字…石田様 ● 脳トレ・レク、読み語り…秋鹿様

<西東京エリア>

- 保育補助…家政大付属女子高2名/城西大付属城西高校1名/志村坂下小学校2名/
板橋有徳高校1名 ほか1名
- 植栽活動…30名 ● その他…6名

<南東京エリア>

- 0歳児クラス・1歳児クラス・2歳児クラス保育手伝い
…第三砂町小学校(高山さん)
- フラワーアレンジメント…3名
- チェロ&コントラバスの合奏コンサート
…個人 (東京ニューシティ管弦楽団所属演奏者)2名
- チェロ&ヴァイオリンの合奏コンサート
…個人 (東京ニューシティ管弦楽団所属演奏者)2名



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒169-0075

東京都新宿区高田馬場4-3-7KSビル203号室

TEL:03-3365-1331 FAX:03-3365-1339



こうほうえんは
ISO9001-2015
(品質マネジメントシステムの国際規格)を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索
<https://www.kohoen.jp>